

眼科 卒後臨床研修プログラム（選択）

I 研修プログラムの目的及び特徴

この研修プログラムは日本眼科学会および厚生労働省の研修要綱も参考にして、千葉大学眼科が作成したプログラムで、眼科救急、基本的手技を体得する事を目的として作成したものである。

この研修プログラムを実践することで、

1. 眼科疾患、また眼科と全身疾患との関わりを学ぶ
2. 眼科の基本検査法を体得する
3. 眼科救急を学ぶ
4. 失明患者の対応を学び、その不自由さ、心情を学ぶ
5. 点眼、軟膏点入、眼帯、洗眼の技術をつける

II 研修プログラム責任者

プログラム総括責任者： 馬場 隆之（教授、網膜硝子体）

III 研修指導医

研修担当責任者： 海保 朋未（助教、網膜硝子体）

指導医：

辰巳 智章（講師、網膜硝子体）

三浦 玄（臨床講師、網膜硝子体）

新沢 知広（助教、網膜硝子体）

北村 裕太（助教、緑内障）

岩瀬 雄仁（助教、加齢黄斑変性）

秋葉 龍太郎（助教、網膜色素変性）

山岸 梓（助教、緑内障）

研修協力型病院

研修担当責任者

成田赤十字病院

国立千葉医療センター

君津中央病院

船橋中央病院

松戸市立総合医療センター

旭中央病院

白戸 勝 部長（眼科）

新井 みゆき 医長（眼科）

浅海 紀子 部長（眼科）

五十嵐 祥了 部長（眼科）

太和田 彩子 部長（眼科）

清水 大輔 部長（眼科）

IV 研修プログラムの管理・運営

研修医は研修を開始するには千葉大学、研修協力型病院（学外病院）で研修する。

V 募集定員

学外病院：5名まで

大 学：5名まで

VI 教育課程

1. 研修開始年度 令和7年4月1日

2. 期間割と研修医配置予定

千葉大学では以下の2コースを提供できる。

学外病院コースは、研修1年目に千葉大学でローテーションし、2年目に協力病院で7カ月間研修するコースである。基本的な眼科検査法、眼科処置法をまず体得し、眼科外来、眼科手術に助教として加わり眼科診療を学んでいく。

大学病院コースは、研修2年目に7カ月間、千葉大学で研修するコースである。眼科の基本的な眼科検査法、眼科処置法をクルズスによって学び、眼科外来の検査、眼科手術に助教として加わり眼科診療を学んでいく。眼科救急について、当直医とともに診察し、診断、治療を学ぶ。

3. 研修内容と到達目標（両コース共通）

1. 一般目標

- (1) 眼科に求められる基本的臨床能力（知識、技能、態度、判断力）を身につける
- (2) 救急眼科疾患にたいする臨床能力を身につける
- (3) 眼科疾患と全身疾患との関連を知識として身につける
- (4) 失明患者に対する対応を身につける
- (5) 眼科手術について基本的知識、治療方針を身につける
- (6) 眼科主要疾患について基本的知識、治療方針を身につける
- (7) 眼科点眼薬について基本的知識、点眼技能を身につける

4. 行動目標

A. 経験すべき診察法、検査、手技

(1) 基本的診察法

視診、触診

神経眼科的検査（瞳孔反応、眼球運動、対座視野）

斜視検査

(2) 基本的臨床検査

細隙灯顕微鏡検査、眼底検査、眼圧検査、隅角検査

視力、屈折検査

視野検査（動的視野、静的視野）

(3) 基本的手技

眼瞼反転

洗眼

眼科における消毒

眼科における包交

点眼

軟膏塗布

(4) 基本的診断

屈折異常

角結膜障害

前房内炎症

中間透光体の混濁

眼底異常

視野異常

眼球運動障害

B. 経験すべき症状、病態、疾患

(1) 症状

視力障害

視野障害

飛蚊症

結膜充血

眼痛

複視

眼脂

流涙

(2) 疾患、病態

白内障

緑内障

網膜剥離

糖尿病網膜症

網膜中心静脈閉塞症

眼外傷、異物、眼瞼裂傷

緑内障発作

網膜中心動脈閉塞症

ぶどう膜炎

C. 特定の医療現場の経験

(1) 救急医療

① 眼科救急外来

VII 週間研修スケジュール

大学病院での主な週間スケジュール

総合カンファレンス 水曜日 14時

その他外来研修、手術研修、検査研修をフレキシブルに行う

VIII 評価方法

1. 眼科研修期間を担当した眼科医長・部長により総合評価が行われる。
2. 研修終了日に千葉大学にて研修報告会をおこなう。
3. 指導医により、各到達目標に対する評価が行われる。
4. 研修医は、各到達目標に対する自己評価表を提出する。